

西 邑 楽 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② (平成23年度版)

(様式2)

羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題		
評 価 対 象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目		①				②	総 合
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%以上の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。専門学科の特色ある取組を85%の生徒・保護者が評価している。		A	A	A	習熟度別授業の満足度は80%を超えているが、指導形態、内容、方法などに、まだ改善の余地がある。専門学科の授業については95%を超える生徒が満足していると答えている。	・習熟度別授業の成績伸長等のデータを分析し学力面での課題を明確化したい。 ・専門学科の授業や特色ある取組についてさらに職員や保護者への理解を広めていきたい。	各学科の目標を達成するために効果的な教育課程を編成する。習熟度別授業や少人数授業の形態や内容をさらに工夫し、より満足度が高まるようにする。
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が[本年度の重点目標]、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。		B	B	B	年度当初の職員会議において、羅針盤の項目を全職員に周知でき、これを指針とする自己目標設定にかなり資することができたが、さらに組織的な指導を展開したい。	・「評価項目」について引き続き協議を十分行い職員全体での目標にしていくことが大事と思う。	中間申告時に面談を実施し教育実践の振り返りを行い、必要な場合、自己目標の修正を行うことで組織的な指導の展開に努める。
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	3 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができてきているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が25名以下、遅刻指導該当者が年間20名以下である。		B	B	B	遅刻指導の該当者は若干昨年度よりも増加してしまっただが、服装頭髪指導の係指導該当者は昨年度の約3分の1に減少した。全体としては落ちているが、さらにきめ細やかな指導が必要である。	・遅刻防止やあいさつの励行に登校時指導、朝読書が機能しているようだ。服装面における男子のズボンの裾や女子のスカート丈は特にきちんとさせたい。挨拶も積極的に働きかけたい。	遅刻防止指導は、若干増加しているものの継続してこれからも指導を続け、遅刻を減少させていこうと考えている。頭髪服装指導は係指導になる生徒が大幅に減少したが、女子のスカートやネクタイの結び方などを指導していきたい。
	4 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。		B	B	B	重大事故はゼロ。軽傷の事故は学期に数件発生。交通安全意識は高まりつつあるが、マナーの点では不十分である。	・自転車点検は丁寧な事後指導を行いたい。又、自転車事故防止の啓発を交通委員会でも行ったらどうか。	自転車点検は継続して行いが、生徒の交通安全意識の高揚を図るために、スタントマンによる交通事故防止教室なども検討していく。
	5 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・体育祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。		A	A	A	各行事担当生徒と会合を開いて生徒主体で進めた。	・行事への取組を通じて生徒の意欲を伸ばしたい。体育祭は保護者の関心も高かった。送別会の改善ができた。	今年度の方針を継承しより深化させていく。
	6 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。		A	A	A	部活動紹介やWebへの発信により一定の成果を収めた。	・頑張っている部活動も少なくないが、休止状態の部を活性化する工夫をし、多くの生徒に参加させたい。	部活動の加入者増加に向けて今年度の方針を継承していく。
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	7 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。		B	B	B	研究授業や授業アンケートを活用して授業改善を進めているが、生徒の授業に対する満足度は十分とはいえない。	・単元ごとの理解度のチェックを英・数等で行っているが、授業への生徒の意見・感想等も聞いたらどうか。	授業アンケートの結果を謙虚に受け止め、授業改善の取組を継続し、より良き授業を目指した授業研究に組織的に取り組む。
	8 授業時間を確保する。また授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1、2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級10名、準2級60名以上である。		D	B	C	予習・復習状況を細めにチェックするとともに、週末課題を課してきたが家庭学習時間の増加につながっていない。	・学年末で目標に近づいている。週末課題の状況を調整、「見える化」して学年全体の取組にしたらどうか。 ・2級の壁は、まだ高い状況である。	家庭で学習する習慣を付けられるような課題の内容や貸し方を工夫する必要がある。第1、2回の英語検定受検者を増やす。部活動顧問に協力を求める。
	9 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。		B	B	B	スポーツ・芸術という特色を持った科に関連する書籍を「光の交付金」を活用して購入し読書意欲向上を目指した。また、ポップコンクールの優秀作品を図書館に展示するなど広報活動にも力を入れ、読書への関心を持たせる工夫をした。	・「朝の読書」は、生徒の自主性が基本だが、読書を巡る話題をテーマにした印刷物を提供してもよいのではないかな。	「朝の読書」を中心に据え、読書習慣の確立、読書の質的向上を明確に意識し学校全体で読書推進に取り組む。
IV 生徒に進路目標を達成させる。	10 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。		A	B	A	面談や進路学習が進路について考える良いきっかけとなり、成果を上げている。	・特に3年の面談は個々の生徒の必要に応じた取組をし効果があった。進路ノートを作成させるのもよいのでは。	進路実現のための学力を付けさせる家庭学習習慣をしっかりと身につけさせたい。
	11 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した体系的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。		B	A	B	各学年の実態にあった進路行事を計画し、生徒の進路意識を喚起できるよう努めた。	・各学年の行事に成果があった。キャリア教育の充実と生徒にまとめや発表させることを充実させたい。	3年間を見通し、生徒の進路実現に効果的な学習、行事を企画する。将来の職業選択につながるようなキャリア教育を推進していく。
V 生徒の心身の健康と安全に留意する。	12 心身の健康に関して適切な自己管理ができるようにする。	・生徒の健康診断に基づく受診率50%以上。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。		B	B	B	生徒の健康診断に基づく受診率が現在の調査で約35%である。	・受診勧告の働きかけを丁寧に行ったが行動に結びつかなかった。 ・適切な熱中症対策を今後も継続を。	口腔ケアを自ら行うことのできる生徒を育成する。
	13 教育相談の体制を充実させる。	・不登校の生徒を減らす。		B	B	B	教育相談だよりの発行、教育相談週間の実施等で生徒への声かけに取り組んだ。	・復帰できた生徒、心配されたが学校を続けられた生徒あり。成果が見られた。	生徒がより相談しやすい環境と雰囲気をつくり生徒に早期の対応ができるようにする。
	14 環境の整備・美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。		B	B	B	安全点検簿を新しく作成した。校内外も比較的にきれいに保たれている。	・大掃除やワックス掛け等円滑にできた。部室周辺の清掃も改善できた。	安全点検簿の中に美化の項目を付け足し美化についても毎月点検していく。
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	15 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・PTA総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。		B	B	B	PTA行事への参加は増えていない。広報活動を工夫する必要がある。	・PTA活動への関心を高めるため、特に学級担任の力が必要と思われる。	PTA総会の参加率を50%以上にする。PTA研修視察、親善球技大会への参加者を増やす。
	16 webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のwebページを週1回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。		A	A	A	学校のWebページは定期的に更新されている。オープンスクールの参加者の満足度は高かったが、来場者数が予想を超えて多かったために、対応が十分でなかった面もあった。	・学校Webページは大変充実している。保護者あてメールも好評で、継続改善したい。	Webページを通じての情報発信を継続する。オープンスクールは実施時期、日程、内容を工夫し、より参加者の満足度が上がるようにする。
	17 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。		B	B	B	服務規律に関する啓発は、服務規律便りの発行を4回、職員会議における啓発を9回行った。2学期には服務に関する職員研修を行い、グループ討議などを実施し、規律意識を高めた。	・11月実施の職員研修会は成果があったようだ。授業改善は、引き続きチャイムスタート・エンドと挨拶等の基本から確認して新年度も進めたい。	服務規律啓発は継続する。授業改善については、1学期に職員全体の研究授業を行い、2学期には教科に特化した研究授業・授業研究を実施し、授業力の向上を図る。